

# 付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成27年1月14～21日に陸奥湾6定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。※4～9月は久栗坂・川内のみ

## 1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現は6地点とも見られませんでした。(図1)

オベリア類(通称クサ)のクラゲは、川内沖で2.3個/トン見られました。(図2)

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりで、ザラボヤ、ネンエキボヤは見られませんでした。

なお、マボヤラーバが野辺地沖で0.8個/トン見られました。

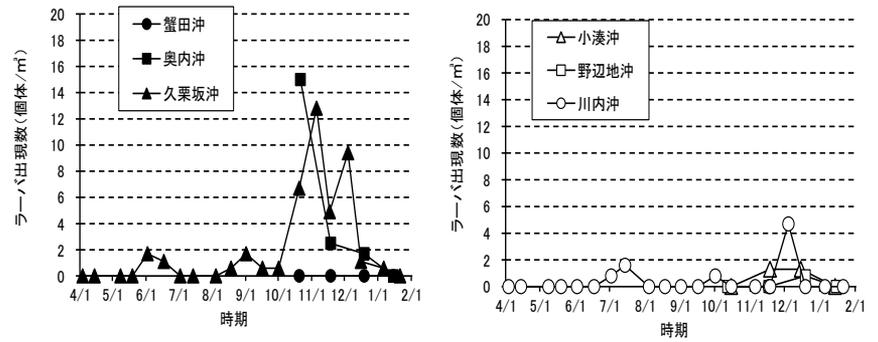


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移

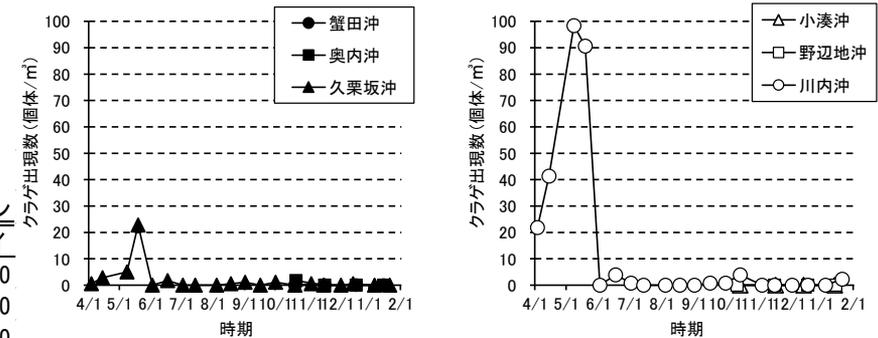


図2 オベリア類(通称クサ)のクラゲ出現数の推移

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
蟹田沖	H27.1.15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
奥内沖	H27.1.15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H27.1.21	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小湊沖	H27.1.14	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	H27.1.15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	H27.1.21	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

## 2 水温の状況

各ブイの1月21日の平均水温は表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(1/22)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	9.8	野辺地ブイ	6.3
奥内ブイ	8.3	東湾ブイ	5.6
青森ブイ		浜奥内ブイ	4.6

※奥内,野辺地,浜奥内は10m層,他は15m層

## 3 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバの出現は西湾・東湾とも12月いっぱいではほぼ終了しており、ラーバの養殖施設への付着は終息したものと思われます。

また、オベリア類のクラゲが出現し始めており(写真1)、今後増加するものと思われます。10月下旬から川内に垂下していたネットに、先端に触手と口を持った2～3cmのポリプ(成体:クサ)が見られました(写真2)。これは、10月下旬から12月上旬の間に幼生(クラゲから生まれる:海中で見つけにくい)が付着し、成長したものと推定されます。これを現在室内で飼育観察中です。

12月上旬と1月中旬に採取したネンエキボヤのコロニー(群体)を現在飼育観察しておりますが、ただちにラーバが発生しそうな状況には見られません。水温が低い時期は、陸上植物の株分かれのように増殖(無性生殖)していくものと思われます。

キヌマトイガイラーバは2月頃に出現してくると思われますので、他のラーバ等と併せて調査していきます。今後のラーバ等の出現動向、付着状況については、次回(2月上旬発行予定)の情報を参考にしてください。



写真1 オベリア類のクラゲ

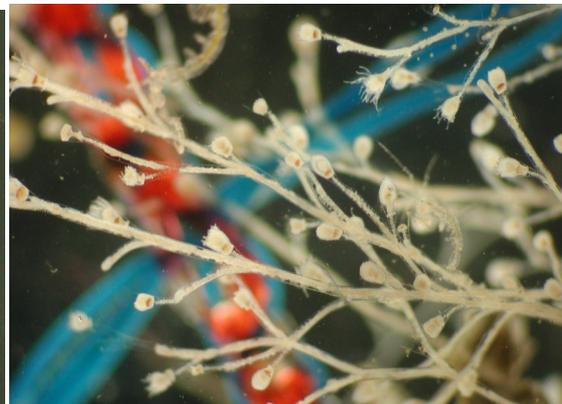


写真2 オベリアのポリプ(成体)

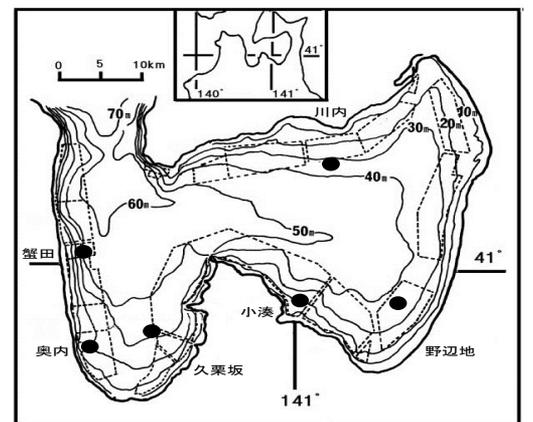


図3 ラーバ調査地点

